



【短信】

「2022年ソサイエティ大会へのお誘い」 (エレクトロニクスソサイエティ大会運営委員長)



碓塚 孝明 (早稲田大学)

2022年9月6日(火)～9日(金)に2022年電子情報通信学会ソサイエティ大会がオンライン開催されます。大会の開催準備、運営を担当される関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、多くの皆様にご講演、ご聴講いただくようお願いいたします。

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大により社会活動が大きな制限を受けてきましたが、電子情報通信の技術はこのような逆境の下でこそ生きるものであり、高い使命感を持って研究活動および学会活動を進めていく必要があると考えます。電子情報通信学会では2020年のソサイエティ大会から完全オンライン大会を継続しており、高いアクティビティの継続に向けて取り組んでいます。2022年総合大会においては、公募講演として一般講演1,656件、シンポジウム講演73件の合計1,729件の講演が行われました。まだコロナ前の講演数には戻っていない状況ではありますが、この厳しい状況下においても活発な研究活動が続いていることが伺えます。一方で、一般無料公開を含んだ参加者数はコロナ前よりも大幅に増加しており、大会の認知度向上に向けて、オンラインの有効な活用が今後の鍵になってくると考えます。オンライン企画の例として、2022年総合大会ではウェルカムパーティーにおいて学生と企業との懇親の場を設ける新たな試みが企画され、各企業の個別ルームにおいて活発な交流が行われました。

さて今回、エレクトロニクスソサイエティにおいては、各専門委員会からの一般講演(C-1 電磁界理論、C-2 マイクロ波、C-3/4 光エレクトロニクス/レーザ・量子エレクトロニクス、C-5 機構デバイス、C-6 電子部品・材料、C-7 磁気記録・情報ストレージ、C-8 超伝導エレクトロニクス、C-9 電子ディスプレイ、C-10 電子デバイス、C-11 シリコン材料・デバイス、C-12 集積回路、C-13 有機エレクトロニクス、C-14 マイクロ波テラヘルツ光電子技術、C-15 エレクトロニクスシミュレーション)のほか、興味深いセッションが企画されていますので、以下に紹介します。

今回、ソサイエティの特別企画セッションとして、「テラヘルツ無線通信に向けた無線・光融合基盤技術」が企画

され、無線・光融合基盤技術に関わる先端的な取り組みが紹介されます。

依頼シンポジウムとしては、「超伝導量子コンピュータ実現に向けた高周波技術の最新動向」「将来の光デバイスに向けた成長及びプロセス要素技術の最新動向」「クリーンエネルギー社会に向けた塗布型デバイスの新展開」「多様な最新ハードウェアシステム設計手法 - 協調設計・モデルベース設計・AI 設計-」、また通信ソサイエティとの合同で、「音響・電磁波・光エレクトロニクス技術の水に関わる無線技術への展開」「カーボンニュートラルの実現に向けたグリーン光通信システム」が企画されています。さらに公募シンポジウムとしては、「電磁界解析における解析的手法と数値解析の最新状況」「磁気記録技術の最前線」、通信ソサイエティとの合同で、「Society 5.0 時代における光・電波を活用した横断型伝送技術」が企画されます。

大会初日9月6日(火) 午後のエレクトロニクスソサイエティプレナリーセッションにおいては、招待講演に加え、ソサイエティ賞、ELEX Best Paper Award、レター論文賞等の各種贈呈式を予定しています。ぜひ奮ってご参加ください。

大会へのご参加、大会プログラム等は下記 URL をご参照ください。

<https://www.ieice-taikai.jp/2022society/jpn/>

オンライン開催が続き、皆様もどかしい思いをされていることと思いますが、成果発表や情報交換、交流の貴重な場として、電子情報通信学会ソサイエティ大会への積極的なご参加をお待ちしております。

著者略歴：

1996年九州大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了。同年4月日本電信電話株式会社に入社し、通信用光半導体デバイスの研究開発に従事。2019年4月より早稲田大学大学院情報生産システム研究科准教授。応用物理学会会員、物理学会会員、IEEE 会員、博士(工学)。